

企画展手鑑「多々良の麻佐古」

「ほっとやまはく」
タイム⑤⑤

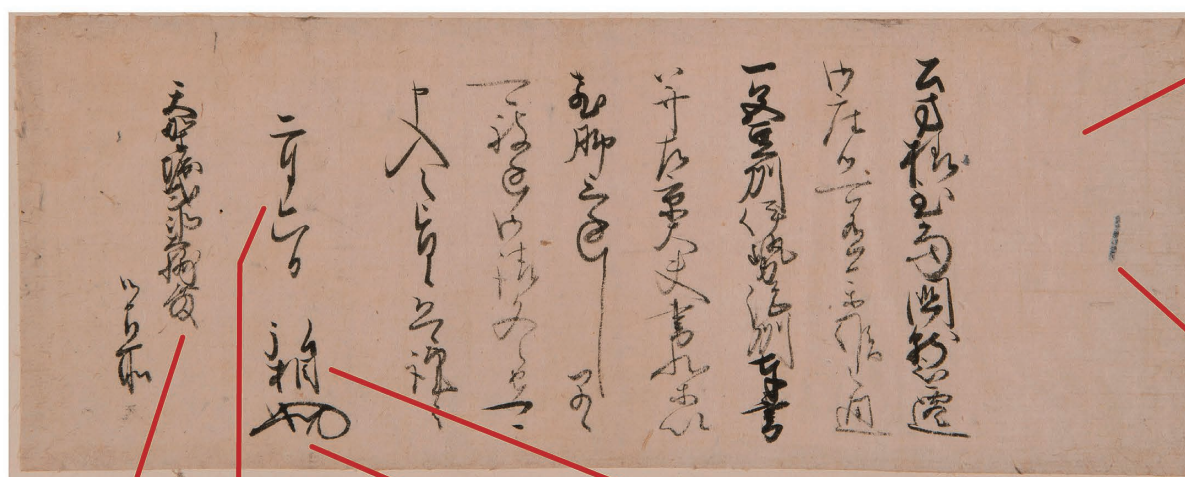


中世大名大内氏文書の粹②

県立山口博物館では、企画展・手鑑（てかがみ）「多々良の麻佐古（まさこ）」を開催中です（会期は2月4日まで）。
本展の特長の一つは、中世武家文書の「書札令（しよさつれい）」を学べることです。「書札令」は文書を出す時の礼法で、差出者と宛所の書き方や文面、字配り、文字の崩し方、料紙の種類や折り方、封書の方法などによって、それぞれの地位や上下関係が分かるのです。今回は、本展の観覧にも役に立つ書札令に注目した中世文書の見方を紹介します。

そもそも中世っていつごろだろう？

山口県の場合：12世紀～16世紀（鎌倉時代～安土桃山時代）



袖…花押がある場合や尚々書（追伸）が書かれる場合がある。

墨引…

墨引と封式

墨引…封じ目。

封式…文書の秘密を保持する手段

- ① 切封…袖を下から切って作った紙紐を、奥から折った本紙に巻いて締封をする。
- ② 捻封…本紙や包紙の上下を捻って締封をする。



切封

差出…

私的な手紙には名前、公的な書類には官職名が書かれる場合が多い。公私によらず、花押のみで何も書かれない場合が「一番薄礼」。

花押…

本人であることを証明するサイン。判、書判ともいう。

- ① 人名や年代を推定する有効な決め手…同一人物でも時期により形が異なる。
- ② 意識や心身の状態を探る手がかり…主君や父祖の影響を受けやすい。思想や信条を反映する場合がある。

日付…

私的な手紙には年号がない。年号は後から書き加えられる場合がある。

宛所…

- ① 敬称の「殿」のくずし方…くずれるほど薄礼。
- ② 日付との位置関係…低くなるほど薄礼。

中世文書ここに注目！

紙の形

- ① 縦紙…漉かれた横長の紙をその大きさのまま使用したもの。
- ② 折紙…縦紙を上下二つ折りにしたもの。折り目は下。
- ③ 切紙…縦紙を切ったもの。中世では横二等分が多い。

紙の種類

- ① 楮紙…楮の繊維を原料とした紙。
- ② 雁皮紙…雁皮の繊維を原料とした紙。光沢があり、温室度の変化に強い「紙の王様」。

なお、企画展の内容について詳しく知りたい人は、山口博物館ホームページをご覧ください。展覧会解説書や出品目録のPDF版を無料でダウンロードできます。
山田稔（主任、歴史担当学芸員）
▽次回は24日です

山口県立山口博物館

TEL

0833-9222-0294

月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで。

